



奈良県農業研究開発センター ニュース

2024
6
vol.166

第3期奈良県農業研究開発中期運営方針による研究をスタート

～今後5年間の研究開発目標を明確化～

センターでは、研究機能の高度化を進める観点から、2014年以降5年ごとに「奈良県農業研究開発中期運営方針（以下、中期運営方針）」を策定し、食と農の振興にかかる研究を実施してきました。このたび、2024年度から2028年度における研究開発目標の選択と集中を明確化するため第3期中期運営方針を策定し、それに基づく研究をスタートしました。

第3期中期運営方針では、5つの重点目標に研究資源を重点的に配分し、これらの重点目標に向けた具体的な研究課題を設定して、研究開発に取り組みます（表1）。

これらの研究課題と並行して、生産現場が求める研究ニーズを常に収集し、研究による課題解決を図るよう努めます。

さらに、限られた研究資源を有効に活用する

ため、大学や国立研究開発法人、研究分野で強みを持つ民間企業等との連携研究を進めます。研究開発によって得られた実践的成果については、迅速に情報提供し、行政・普及と連動した効果的な技術普及に努めます。

今後、これらを基本方針として研究開発に取り組みます。

表1 第3期中期運営方針の重点目標と研究課題

重点目標	研究課題
新たな奈良県農業の取組を支える	長距離輸送性を高めるイチゴの品質保持技術の開発
	一番茶生産に特化した有機栽培体系の確立
	枝物の短期育苗技術と品質保持技術の開発
「奈良の食」の魅力を活かす	奈良県オリジナル酒米新品種の栽培技術の確立
	県産小麦の生産量増加に向けた栽培管理技術の確立
	ヤマトウキにおける抽苔抑制技術の開発
	ヨモギ栽培技術の開発
新技術に取り組む特定農業振興ゾーンを支援する	吉野葛の科学的評価と栽培技術の確立
	大和高原地域の有機農業を支援するための技術開発と品目の選定
	温暖化に対抗する施設野菜の生産安定
	イチゴを中心とした需要動向の調査と生産コスト低減の検討
大規模産地の継続的な発展を支える	ナスうどんこ病に対する有効薬剤の探索と防除の省力化
	野菜類のアザミウマ類等に対する農薬代替技術の開発
将来の環境変化に対応する	新たなカキ品種の育成
	キク白さび病の感染環を断ち切る技術体系の確立
	温暖化に適応した果樹新規品目の栽培適性調査
	食品残渣等の未利用資源の特性把握
	県民の食と農の安全安心を支える基盤的調査